いじめ問題解決に向けた各校の取組の報告

（藤岡市立藤岡第一小学校）

１　いじめ問題解決に向けた私たちの取り組み名

自分らしく、自信を持って、チャレンジ！！

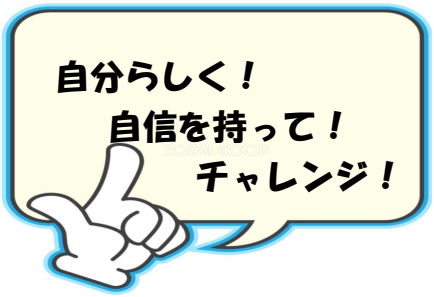
２　いじめ撲滅宣言とのかかわり

「ほほえみ」（本気で勉強、本気で運動、笑顔で挨拶、みんな仲良し）という藤岡第一小学校の合い言葉をもとに、児童が学級で存在感を味わいながら生活できる温かい学級経営を行うことで、安心して**「笑顔」**の絶えない環境を生み出す。安心して生活できる環境において失敗を恐れずに**「やる気」**をもって、勉強や運動に一生懸命本気で取り組めるようにする。日々の生活で、児童が主体的に物事に取り組めるように促し、一歩ずつ成功体験を積み重ね、「できた」、「またチャレンジしてみよう」と**「希望」**をもって生活できるようにする。これらのことを教師は心がけています。

また、児童と教師の人間関係づくりを基に、「児童が自ら考え行動する教育」への教師側の意識改革や関わり方を昨年度同様に継続して進めています。そして、教師からの指示がなくても児童が自ら考え活動できるような新たな枠組づくりを昨年度より進めており、自分たちの学校を自分たちで良くしていこうという主体性をさらに高めていこうとしています。

その一例として、児童の考えや意見を直接的に反映した活動を取り入れることが挙げられます。自分たちの思いが形になる喜びから「笑顔、やる気、希望いっぱいの学校づくり」にも大きく関わっています。

これらの取組は、小学校だけでなく中学校へも続いていくつながりのある取組であることを全職員で共通理解し、チーム藤岡第一小として「いじめをしない、させない、許さない」という、いじめ撲滅宣言と関連づけた指導、児童の主体的な活動につなげています。



３　共通の取組「スマイルハイタッチあいさつ運動」「ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動」「藤岡市ネットいじめ防止行動目標アクション３＋」

・スマイルハイタッチあいさつ運動

小中連携でスマイルハイタッチ挨拶運動を行いました。小学生の元気いっぱいのあいさつ、中学生の落ち着きのあるあいさつ、いずれもしっかりとあいさつを交わすと気持ちよく一日がスタートできます。

地域の方には日頃から温かい見守りもしていただいています。藤岡第一小学校の児童が事故なく「笑顔」で登下校できているのは地域方々のお力添えがあるからこそです。

お互いに元気な挨拶を交わして日々の勉強や運動に「やる気」をもって一生懸命、本気で頑張っています。

・ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動

後期人権週間の活動と関連付けて取り組みました。
まず、人権集会で各学年の代表者が人権標語を発表しました。

「私から広げる　まわりの人への思いやり」

「友だちを思う分だけ思われる
みんなでつくろう思いやりの輪」

など、どれも主体的に良好な人間関係を築くことを考え、自ら行動に移していこうという内容でした。児童の気持ちに共感的な人間関係を育んでいくこと、認め合っていくことはとても大事であるという思いが表れていました。

また、「ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動 」について児童会の本部から意義や活動の内容について説明がありました。お互いの良いところを見つめ、認め合うことができれば良好な人間関係を築くことができ、いじめをなくすことができるといったいじめ防止の基礎となる部分を学校全体で確認しました。

その説明をもとに、各クラスで普段から友達に対して「すごいな」、「かっこいいな」と思っていることや、直接伝えられていない「感謝の気持ち」などを伝え合いながら学校生活を送りました。なかなか気づけなかった自分の良さや友達の良さを改めて確認することができ、クラスに笑顔がより一層増え、これからも仲間とともに楽しく過ごしていこうという希望いっぱいの子どもたちの様子がうかがえました。いじめ撲滅宣言の達成に向けて、確実に歩みを進めていることが確認できました。

・藤岡市ネットいじめ防止行動目標アクション３＋

児童会本部からアクション３＋について学校全体に啓発を行ったり、各学年ブロックの発達段階に応じて、道徳や学活の授業で取り上げたりして学習を進めています。「相手が喜ぶ言葉を使おう」、「送信する前に確認しよう」、「大切なことは相手の目を見て伝えよう」はネットの中だけでなく、普段の生活においても大事なことです。そこでネットの枠を超え、解釈を広げて内容を扱っています。（送る前→言う前等）

高学年では、実際にネットを利用する場面も多くなってきているので、講師を招きネットとの関わり方についての基本的な内容である「おぜのかみさま」を教えていただき、アクション３＋とを関連付けた指導を行いました。同じ言葉でも相手の受け取り方で真意が伝わらないことがあること、直接会って話せば気持ちを伝え合うことができること､などを確認しました。相手を思いやってコミュニケーションをとることの大切さが大変よく分かりました。

４　私たちの取組

縦割り活動「なかよし集会」では、６年生が中心となってみんなが楽しくできる活動を考え、運営しています。活動の最後に振り返りをするのですが、上学年の児童が下学年の児童を思いやる発言が回を重ねるごとに増え、高学年のリーダー的資質や互いを思いやる心を向上させる取組となっています。

「ほほえみプロジェクト」では、児童の主体性を大切にし、有意義な活動となるように支援しています。委員会活動が児童の主体的な活動となってきたので、さらにいろいろな活動へと広げ、「児童自らがよりよい学校を築いていく」という意識をさらに高め、「笑顔、やる気、希望いっぱい」の生活がより浸透していくように支援していきたいと思います。

５　取組まとめ

（１）取組の成果

・高学年のリーダー性、それに憧れた下学年の頑張る姿勢が向上し、笑顔やチャレンジする姿がたくさん見られた。

・「スマイルハイタッチ挨拶運動」などの活動に児童が意欲的に取り組めた。

・自己存在感や共感的人間関係を育むための仕掛けを仕組んだ授業実践がされている。

（２）今後の課題

・児童が主体的に考え活動する場や機会をさらに増やしていく。

・児童間はもちろん、教師と児童の共感的人間関係をさらに深めていく。

・「いじめはどこにでも起こり得る」という意識のもと、見逃さないように努める。

いじめ問題解決に向けた年間の取組

藤岡市立藤岡第一小学校

月	学校の取組	一貫校の取組
４月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・アクション３＋を通して、SNS等の利用について児童に啓発	
５月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・なかよし集会①（縦割り班での交流による人間関係づくり）	
６月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・「信頼、友情」「思いやり、親切」の道徳を実施（前期人権週間） ・児童会本部、各委員会役員を中心としたスマイルハイタッチあいさつ運動 ・なかよし集会②③(縦割り班での交流による人間関係づくり）	・いじめ問題解決に向けた教育講演会 ・小中、地域でのスマイルハイタッチあいさつ運動
７月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・アクション３＋を通して、SNS等の利用について児童に啓発	
８月	・臨海学校、全校登校日での児童の様子確認	
９月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・多野藤岡地区いじめ防止フォーラム参加 ・運動会による人間関係の強化	
１０月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査）	
１１月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・なかよし集会④（縦割り班での交流による人間関係づくり） ・「SOSの出し方」についての学級活動（後期人権週間）	
１２月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・５年生を中心としたスマイルハイタッチあいさつ運動 ・HAPPYはぁとふるツリー運動（後期人権週間） ・なかよし集会⑤（縦割り班での交流による人間関係づくり）	・小中、地域でのスマイルハイタッチあいさつ運動
１月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・児童会によるアクション３＋の啓発 ・なかよし集会⑥（縦割り班での交流による人間関係づくり）	
２月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査） ・いじめ問題解決に向けた子ども会議参加 ・子ども会議内容の伝達 ・なかよし集会⑦⑧(縦割り班での交流による人間関係づくり）	
３月	・生活アンケート（いじめ･悩み事実態調査）	

１　いじめ問題解決に向けた私たちの取組

「フレンドリー　スマイリー ☺ みんながつながる藤岡第二小」

２　「いじめ撲滅宣言」とのかかわり

藤岡第二小学校では、今年度も継続して、いじめ撲滅宣言行動目標の中の「①私たちは、相手の目を見て心のこもったあいさつをします。」「②私たちは、児童会活動や学校行事を通して潤いがあり、温かい学級目標を自ら作ります。」「③私たちは、学年・学校をこえて交流を盛んにし、思いやりの心を育てます。」「④私たちは、友達のよいところを進んで認め、ほめます。」を重要課題に挙げて、いじめのない、みんなが絆で繋がり合えることを基盤に、楽しく明るい、笑顔とやる気、元気あふれる学校づくりをしようと考えました。

特に、学年間だけでなく学校全体で、明るい笑顔と元気なあいさつで友達同士の交流が図れることや、友達を大切にすることでお互いの気持ちが理解できることを「あいさつ運動」や「なかよし集会」を通して、感じられるようにしてきました。友達との繋がりを大切にしながら、笑顔とやる気、元気があふれる学校生活を送ろうとする気持ちを高めることができました。

３　共通の取組「スマイルハイタッチあいさつ運動」「ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動」「藤岡市ネットいじめ防止行動目標アクション３＋」

（１）スマイルハイタッチあいさつ運動

学期ごとにあいさつ運動強調週間を設定して、４年～６年の学級委員、５・６年の各専門委員が順番に校門前に立ち、スマイルハイタッチあいさつ運動に取り組んできました。これまでに継続してきたことの成果が見られ、互いに目を見て、あいさつとハイタッチができるようになりました。

６月には、代表委員会が中心となって「あいさつ運動紹介式」を行いました。きちんとあいさつする意味を全校児童に問い、「１日の学校生活を楽しく活動していくために元気にあいさつしよう」と呼びかけました。そして、「しっかりと目と目を合わせる」「やさしいハイタッチをする」など、気持ちのよいあいさつとはどのようなものか具体的に紹介した上で手本を示し、スマイルハイタッチあいさつ活動を盛り上げました。この取り組みを通して、下級生も大きな声を出して気持ちのよいあいさつができるようになり、あいさつの活性化を図ることができました。

藤岡第二小学校では、全校が学校生活の様々な場面で進んであいさつを交わす雰囲気ができてきました。スマイルハイタッチあいさつ運動の成果が着実に表れています。

（２）ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動

「ふれあい週間」という人権週間に、人権教室を開催して、学年や学校全体で友達とのよりよい関わり方について考え、実践できるようにしました。そして、友達からもらった温かい言葉かけや行為等の思いやりの言動をハートの形の紙に書いて、「ハッピーハートフルツリー」に貼り、全体の意識を高めてきました。

この活動では、昨年度の「思いやりの心」についての道徳の授業一斉実施に引き続き、今年度は全校一斉に人権教室を行ったことが、大きな成果に繋がってきているといえます。

また、全校児童が人権標語を作成しました。児童一人一人が友達と仲良くするためにはどうしたらよいかを考え、自分の言葉で標語にしていました。「ハッピーハートフルツリー」と「人権標語」は、いつでも誰でも目にすることできるように、廊下や階段の壁面や玄関に掲示しました。また、お昼の放送では、学級代表の児童の人権標語の発表も行いました。

人権週間実施後、ハートの優しさの花がたくさん咲いた「ハッピーハートフルツリー」を、全校集会で代表委員会が紹介し、これからも「つながり」を大切にしていこうと呼びかけました。

（３）藤岡市ネットいじめ防止行動目標アクション３＋

「ネットいじめ防止行動目標アクション３＋」を全校児童に広め、自分のこととして考えられるようにするために、２学期末の全校集会で児童会が「人と関わるときに心がけたいこと、３つのアクション」を発表しました。「相手が喜ぶ言葉を使おう」「伝える前に確認しよう」「大切なことは相手の目を見て伝えよう」これらの３つのアクションを心がけて生活して、あいさつ運動や HAPPY はぁとふるツリー運動、学校生活の中で築いてきた友達とのつながりを、３学期にも引き継いでいこうという呼びかけを通して、全校の意識が高まりました。

また、高学年の児童、保護者を対象に「情報モラル講習会」を実施しました。児童が実際に直面しやすいトラブルの危険性とその対処法、インターネットを使う際のマナーやルールについて理解を深めました。ここでの学びを生かして、児童会を中心に SNS の使い方について発表したり、積極的に全校に呼びかけたりする取り組みも行いました。

４　私たちの取組

（１）なかよし集会（たてわり遊び）

１年生から６年生まで３０～３２名ずつを１班とし、誰とでも仲良くしようをモットーに月に一回程度、年間を通して遊びを中心に異学年交流を深めてきました。これは、上級生にとっては下級生のお手本となる良い機会であり、下級生にとっては、上級生のようになりたいという目標ができる良い機会となっています。

特に６年生は、全学年が楽しく遊ぶために、遊び方を工夫しなければならないので、相手のことを意識しながら集会を行わなければなりません。６年生にとっては、下級生のことを考えた遊びを計画したり、遊びがスムーズに実

行できるように指示や準備をしたりすることで、相手のことを考え、思いやる気持ちを高めることができました。また、５年生は、もうすぐ学校のリーダーになるという自覚がもてるよう、３学期からは６年生に代わり班のリーダーシップをとって活躍しました。コミュニケーションを積極的にとる機会となり、相手の立場に立った言動をすることができるようになり、異学年の人間関係づくりにつながりました。

（２）ふれあい週間

思いやりの大切さに気づき、誰とでも仲良くしようとする心情や友達の良さを知り、助け合って生活していこうとする態度などを育てることを目標とし、ふれあい週間が設定されました。児童会が主体となってふれあい集会を計画し、全校での業前活動で実施しました。

「人権」とは、人が生まれながらにもっている、幸せに生きる権利であること、人権を大切にするためには友達を思いやり、優しくしていくことが自分たちにできることであるということを児童会のメンバーが全校児童に向けて説明しました。そして、「花は咲く」を全校児童が心を込めて合唱しました。

また、HAPPY はぁとふるツリー運動の取り組みや、人権教室、人権標語の掲示やお昼の放送での発表もこのふれあい週間の時期に合わせて行ったことにより、児童の人権意識への高まりが見られました。

５　取組のまとめ

（１）取組の成果

学校生活の中の「スマイルハイタッチ運動」「なかよし集会」、全校行事としての「ふれあい週間（人権週間）」「HAPPY はぁとふるツリー運動」を形骸化させることなく、目的意識をもって今年度も継続して取り組むことができました。また、昨年度の「児童主体のいじめ防止活動の活性化」という課題を踏まえ、今年度は児童が主体となって行事や集会を計画し、活動を進めていくことに力を入れてきました。学校をよりよくするためにはどうすべきか、自分たちに何ができるか、児童会が中心となって考え取り組んできました。児童会を中心とした、上級生の手本となる姿や呼びかけは、下級生の児童の心にも響き、学校全体によい影響をもたらしました。児童が明るいあいさつを交わし合い、学校全体が笑顔とやる気、元気に満ちたよい雰囲気で学校生活を送っている様子が見られます。また、今年度は本校のいじめ件数も例年に比べ減少し、児童に行った２回のハイパー QU テストでも、児童が全国平均よりも満足度の高い学校生活を送ることができていることが結果として表れていました。

（２）今後の課題

今年度は、児童会が中心となっていじめ問題解決の取り組みを進めてきました。今後は、児童会だけでなく、各委員会とも連携し協力し合って、組織的に多方面からいじめ解決に向けた取り組みを行っていきたいと思います。教員が適切にサポートし、児童が主体的に考え、行事や取り組み等を企画し、実践していけるようにしていきます。

また、ハイパー QU テストでは学校生活への満足度の高い児童が多いものの、支援を必要とする児童もいます。児童のサインを見逃さず、学校全体で組織的・継続的に支援をしていける体制作りに一層努め、思いやりの心が行き交う、温かい学校づくりに取り組んでいきたいと思います。

いじめ問題解決に向けた年間の取組

藤岡市立藤岡第二小学校

月	学校の取組	中学校区での取組
4月	・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査）	・年度初め総会にてネットいじめ防止行動目標アクション3＋、北連携型小中一貫校「生活の心得」の確認を活用しての児童・生徒、家庭への啓発 ・児童生徒にSOSを出すことの勇気について話す。
5月	・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査） ・なかよし集会①（縦割り班での交流による人間関係作り）	・第1回ハイパーQUテストの実施
6月	・代表委員会・専門委員会を中心としたスマイルハイタッチあいさつ運動 ・代表委員会によるあいさつ運動紹介式 ・なかよし集会②（縦割り班での交流による人間関係作り） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査） ・「ネットいじめ防止行動目標アクション3＋」の視点での生活の振り返り	・いじめ問題解決に向けた教育懇談会
7月	・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査） ・長期休業前の話の中で「ネットいじめ防止行動目標アクション3＋」を活用	・長期休業に向けて、北連携型小中一貫校「生活の決まり」についての全体指導 ・QU研修会の実施
8月	・始業式にてSOSの出し方についての話	・北連携型小中一貫校子ども会議開催
9月	・代表委員会・専門委員会を中心としたスマイルハイタッチあいさつ運動 ・藤岡多野いじめ防止フォーラムへの参加（藤岡中央高校） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査）	・児童生徒にSOSを出すことの勇気について話す。
10月	・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査） ・なかよし集会③（縦割り班での交流による人間関係作り）	
11月	・人権教室開催 ・代表委員会・専門委員会を中心としたスマイルハイタッチあいさつ運動 ・なかよし集会④（縦割り班での交流による人間関係作り） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査）	・第2回ハイパーQUテストの実施
12月	・HAPPYはぁとふるツリー（人権週間『ふれあい週間』） ・なかよし集会⑤（縦割り班での交流による人間関係作り） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査） ・長期休業前の話の中で「ネットいじめ防止行動目標アクション3＋」を活用	・QU研修会の実施 ・長期休業に向けて、北連携型小中一貫校生活の決まりについての全体指導
1月	・なかよし集会⑥（縦割り班での交流による人間関係作り） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査）	・児童生徒にSOSを出すことの勇気について話す。
2月	・代表委員会・専門委員会を中心としたスマイルハイタッチあいさつ運動 ・いじめ問題解決に向けた子ども会議への参加 ・子ども会議の内容の伝達 ・なかよし集会⑦（縦割り班での交流による人間関係作り） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査）	
3月	・なかよし集会⑧（縦割り班での交流による人間関係作り） ・生活アンケート（いじめ・悩みごと実態調査） ・長期休業前の話の中で「ネットいじめ防止行動目標アクション3＋」を活用	・長期休業に向けて、北連携型小中一貫校生活の決まりについての全体指導

いじめ問題解決に向けた各校の取組の報告

（学校名　　神流小学校）

１　いじめ問題解決に向けた私たちの取組名

～　自分たちで課題を考え、自分たちの力で変えていこうとする神流小　～

２　「いじめ撲滅宣言」とのかかわり

いじめ撲滅のためには、教員だけではなく、児童全体が共通して同じ思い、同じ意識を持つことが大切だと考えます。児童自らがいじめをなくすための取組を考え、実践していくことを目指します。「笑顔、やる気、希望いっぱいの学校づくり」に視点を当て、消極的な生徒指導を行うのではなく、子ども達のプラスの気持ちをたくさん引き出し、いじめの元となるようなマイナスな気持ちをもたせないよう、日々の授業や生活の中で指導の仕方を工夫するという思いで日々指導しています。

３　共通の取組

「スマイルハイタッチあいさつ運動」

毎月第一木曜日の朝に、スマイルハイタッチあいさつ運動を実施しています。代表委員がたすきをかけ、各校門前や玄関前であいさつをしています。ＰＴＡ役員とも連携し、地域全体で児童を見守り、笑顔でハイタッチを交わす姿があります。

また、単にあいさつ運動を行うのではなく、元気で爽やかなあいさつができていた児童を代表委員がチェックをし、お昼の放送で発表したり、特によかった児童を表彰したりして、児童のやる気を高める工夫をしています。

「ＨＡＰＰＹはぁとふるツリー運動」

人権週間に行う活動として、児童集会の時に児童会がＨＡＰＰＹはぁとふるツリーのやり方や意義について説明をし、全クラスで実施しています。友達の良いところや感謝の気持ちを伝え、他者から認められる経験を通して、笑顔が増え、自信がつきやる気がわいてきます。今年度は、前期と後期の２回実施しました。各学年の廊下に優しいプラス言葉の花がたくさん咲きました。

「藤岡市ネットいじめ防止行動目標アクション３＋」

神流小ではアクション３＋を普段のコミュニケーションから意識すべきものととらえ、授業での話し合い活動の場や、人の話を聞くときにも、相手の目を見て、言葉を選びながらコミュニケーションするよう、学校全体で意識して取り組んでいます。今年度は、代表委員会で普段の取り組みにプラスしてできる活動を考え、全校に向けて伝えました。あいさつ運動の時に、目を見てあいさつをすることをまず心がけることを意識しよう！と決まりました。また、良いあいさつができている児童には、「いいあいさつだね」、「さわやかだね」などのプラスの声かけを、元気のない児童には、「どうしたの？」「元気出して！」などの声かけを行うことを代表委員がまず意識し、それを各学年の学級委員が自分のクラスで実践できるよう、呼びかけを行っています。

４　私たちの取組

（１）リーダーズ会議

神流小では「各委員会の委員長も交えて、神流小をよりよくしていくための会議を行いたい。」という児童の声から結成された児童主体の「リーダーズ会議」を行っています。代表委員会（４年生以上の学級委員長・副委員長）と各委員会委員長がともに、それぞれの立場で行えることを話し合い、いろいろな方面から学校をよりよくするための実践を行っています。

一つの委員会だけでは具体的な解決策を導き出せない場合は、委員会同士の強み（特性）を生かして、コラボレーション企画なども行っています。

（２）あいさつ大作戦

リーダーズ会議で出された提案から、神流小の課題をあいさつととらえ、リーダーズのメンバーがあいさつ隊のたすきをかけ、校内をあいさつして回る活動を行っています。児童会長から校内放送であいさつの大切さやあいさつ大作戦の意義を説明し、実践しました。リーダーズ会議のメンバーだけでなく、高学年の中から一緒にあいさつ隊として活動したい！という児童も少しずつ増え、たくさんの高学年の児童が自分から進んであいさつ隊に加わるようになってきました。

また、よくできている児童にはリーダーズの児童がスタンプカードを配ってやる気を高めるなど、工夫をして実践したところ、校内で以前より明るいあいさつが交わされるようになってきました。さらに、リーダーズの存在は下学年の児童にとってあこがれの存在となっており、次のリーダーの育成にも役だっています。

（3）フレンドリー

縦割り活動として、6年生が主体となって班ごとに様々な活動をしています。1年生を迎える会や持久走練習、長縄など学年を超えて交流がされています。３学期からは５年生が引き継ぎ、高学年としての自覚をもって学校生活を送れるようにしています。

５　取組のまとめ

（1）取組の成果

リーダーズ会議では、自分たちの学校の課題を自分たちで考え、それを解決しようとする心が養われ、自分たちがよい学校をつくっていく「児童による自治的な活動」を進めることができました。あいさつ大作戦では、あいさつ隊が友達を巻き込んで一緒に校内を歩き回る姿が見られるなど、児童に意識の変化が目に見える形で感じられるようにもなってきました。また、低学年児童は「なぜあいさつ隊のたすきをかけたお兄さんお姉さんが教室にくるのか」と担任に質問するなど、自然とあいさつの意義や価値についてクラスで話し合う場をもつこともできました。フレンドリーでは高学年が低学年と一緒に活動できるようにする工夫をする必要があり、学年間の交流とともに、他者理解の場にもなっています。

各取組から、教員からの呼びかけ（指導）ではなく、児童から出た工夫や発想から、他者とのコミュニケーションの機会を増やすことで孤立をなくし、いじめ防止の意識醸成につなげることができたと感じます。

（2）今後の課題

児童が主体的に考え、「よりよい学校づくりのために」活動を行ってきましたが、それぞれのクラスで児童がいじめについて主体的に考える機会を持つことが学校として徹底できなかったことが課題です。今後は、特別活動部が主となり、学級活動の中身を系統立てて実施していきたいと考えています。

児童がいじめそのものについて考える機会を設定し、現在行っている活動がいじめ防止につながるということを児童が実感できるようにしていきたいです。